

SIST

科学技術情報流通技術基準

参照文献の書き方

SIST 02 - 1997

平成 9 年 3 月 24 日 改訂

科学技術情報流通技術基準検討会 審議

(科学技術振興事業団 発行)

基 準 制 定：科学技術庁 原案策定：昭和51年10月 基準制定：昭和55年 7 月
基準改訂：平成 9 年 3 月

審 議 会：科学技術情報流通技術基準検討会 (科学技術庁 科学技術振興局科学技術情報課)

原 案 作 成：科学技術情報流通技術基準検討会作業部会 (科学技術庁)

原 案 修 正：科学技術情報流通技術基準作成委員会 (科学技術振興事業団)
科学技術情報流通技術基準修正委員会 (科学技術振興事業団)

この基準についての意見又は質問は，科学技術庁科学技術振興局科学技術情報課（〒100
東京都千代田区霞が関 2 丁目 2-1）へ連絡して下さい。

科学技術情報流通技術基準検討会

(会 長)	中村 幸雄	インフォコム技術事務所長
(委 員)	石塚 英弘	図書館情報大学図書館情報学部教授
	市川 幸郎	TOMO コンサルタンツ所長
	大山 敬三	学術情報センター助教授
	兼谷 明男	通商産業省工業技術院標準部情報規格課長
	神尾 達夫	日経リサーチ㈱取締役企業調査局長
	佐原 卓	科学技術振興事業団文献情報部長
	菅原 秀明	国立遺伝学研究所生命情報研究センター教授
	鈴木 博道	㈱国際医学情報センター企画室長
	須田 了	㈱日本工学会事務局長
	高木 清継	農林水産省農業研究センター研究情報部長
	高谷 晴生	通商産業省工業技術院物質工学工業技術研究所計測化学部長
	高山 正也	慶應義塾大学文学部図書館情報学科教授
	千原 秀昭	㈱化学情報協会専務理事
	仲本秀四郎	IRIS 情報学研究所長
	長山 泰介	㈱日本医薬情報センター常任理事
	平松 伸章	日本原子力研究所技術情報部長
	古谷 実	㈱サンビプロダクトセンター取締役
	正井 良知	国立国会図書館専門資料部科学技術資料課長
	山口 昭則	㈱日本特許情報機構事業管理室長
	山田 豊通	日本電信電話㈱研究開発推進部技術情報部門長
(事務局)	科学技術庁科学技術振興局科学技術情報課	

科学技術情報流通技術基準作成委員会

(委員長)	長山 泰介	㈱日本医薬情報センター常任理事
(委 員)	大山 敬三	学術情報センター助教授
	佐原 卓	科学技術振興事業団文献情報部長
	高橋 征生	㈱日本機械学会事務局長
	高山 正也	慶應義塾大学文学部図書館情報学科教授
	田中 洋一	凸版印刷㈱総合研究所画像情報センター主任研究員
(事務局)	科学技術振興事業団文献情報部技術管理部門	

科学技術情報流通技術基準修正委員会

(主 査)	古谷 実	㈱サンビプロダクトセンター取締役
(委 員)	大塚奈奈絵	国立国会図書館専門資料部科学技術資料課主査
	久米 敏雄	科学技術振興事業団文献情報部医学薬学部門副主任情報員
	寺村由比子	駿河台大学文化情報学部教授
	藤田 節子	東洋大学社会学部応用社会学科講師
	藤田 雅子	㈱日本薬学会学術課課長補佐
(事務局)	科学技術振興事業団文献情報部技術管理部門	

科学技術情報流通技術基準

参照文献の書き方

目 次

1. 適用範囲と基準の対象者	1
1.1 適用範囲	1
1.2 基準の対象者	1
2. 用語の意味	1
3. 通 則	3
3.1 書誌要素	3
3.2 書誌要素を求める箇所	3
3.3 表記法	3
3.3.1 言語及び文字	3
3.3.2 翻字・ローマ字書き	4
3.3.3 略記法	4
3.3.4 大文字使用法	4
3.3.5 書 体	4
3.3.6 句読点法	4
4. 書誌要素の記述と構成	5
4.1 著者などに関する書誌要素	5
4.1.1 個人著者名	5
4.1.2 団体著者名	6
4.1.3 著者が不明の場合	6
4.1.4 編者名，編さん者名，翻訳者名	6
4.2 標題に関する書誌要素	7
4.2.1 論文名	7
4.2.2 誌 名	7
4.2.3 書 名	8
4.2.4 会議報告書名，会議名	8
4.2.5 会議開催地，開催期間及び主催機関名	8
4.3 出版及び物理的特徴に関する書誌要素	8
4.3.1 版表示	8
4.3.2 出版地	8
4.3.3 出版者	8

4.3.4 出版年	8
4.3.5 雑誌の巻数・号数	9
4.3.6 レポート番号	9
4.3.7 大学名及び学位授与年	9
4.3.8 ページ	9
4.3.9 シリーズ	10
4.4 特許文献に関する書誌要素	10
4.5 その他の書誌要素	11
4.6 書誌記述の構成	12
4.6.1 記述の順序	12
4.6.2 書誌要素の必要度	12
5. 資料種類別の記述例	14
5.1 雑誌	14
5.2 図書	17
5.3 論文集	20
5.4 レポート	22
5.5 学位論文	24
5.6 会議報告	25
5.7 プレプリント	26
5.8 特許文献	27
解 説	28

科学技術情報流通技術基準

参考文献の書き方

Description of Bibliographic References

1. 適用範囲と基準の対象者

1.1 適用範囲

この基準は、文献を参照する際に記述すべき要素、その選定、表記法について原則と指針を与えるものである。

この基準は、次のような文献を参照するときに用いる。

雑 誌	図 書
論 文 集	レポ ー ト
学位論文	会議報告
プレプリント	特許文献

なお、この基準でいう参考文献には、参考文献、引用文献を含む。

1.2 基準の対象者

この基準は、参考文献を実際にかき、かつ利用する著者と、その書き方を規定する編集者等を対象としている。

2. 用語の意味

この基準に用いる主な用語の意味は、次のとおりとする。

(1) 合 集 (collection)

1人又は2人以上の著者のいくつかの著作を集めたもの。“全集”、“選集”、“著作集”、“論集”、“体系”、“講座”等の名称が多く用いられる。

(2) 書誌要素 (bibliographic element)

書誌記述を構成し、それ自身で独立した最小の情報の記述単位。

(3) シリーズ (series, monographic series)

多数の個別の図書が、通常は、同一の出版者から、統一した装丁と共通する総合タイトルをもち、番号をつけ、又はつけないで、逐次刊行される場合、全体をシリーズという。叢書。

(4) 媒体表示 (medium designator)

印刷され、肉眼で読むことのできる資料以外の形態又は材料を有する資料であることを表示する語句。

(5) 標題紙 (title page)

図書の書名、著者名、出版者名等を記し、本文の前につけたページ。出版年等を標題紙の裏ページに記すことも少なくないので、書誌要素の情報源として最も重要である。日本の図書は、通常、標題紙裏を用いず奥付がこれに代る。逐次刊行物は標題紙をもたず、書誌要素は表紙及びマストヘッドから採るのが普通である。

対応国際規格：ISO 690 Documentation — Bibliographic References — Content, Form and Structure

関連基準・規格：SIST 04 書誌的情報交換用レコードフォーマット（内形式）

SIST 08 学術論文の構成とその要素

SIST 10 書誌データの記述

(6) プレプリント (preprint)

会議等の開催に先立って、講演の要旨を印刷刊行したもの。あるいは、学術雑誌に投稿される論文や国際会議の報告集の原稿を、刊行に先立って、著者あるいは学会等で印刷配布するもの。プレプリント番号をもつものもある。

(7) 翻字 (transliteration)

ある言語を表記する通常の文字体系を、他の文字体系で表わすこと。文字は1対1の対応が原則であるが、特殊な記号を用いない限り実現できないロシア文字（キリル文字）、ギリシア文字等からローマ字への翻字はISO規格及び推奨規格がある。

(8) マストヘッド (masthead)

誌名、発行者、住所、刊行頻度、予約価格等を記した項目で、通常目次ページ又は表紙裏などに掲載される。

(9) 役割表示 (role indicator)

本来の著作者以外の役割をもつ人名に付加してその役割を示す語。

(10) レポート (report)

研究開発の成果、中間報告、その他の技術的研究調査の記録を個別に刊行したもの。一般に、(a)シリーズを成し、(b)刊行間隔は不規則、(c)速やかに刊行することに主眼をおき、その多くはレフェリー制度をもたない等の特徴をもち、さらに固有のレポート番号のほかに種々の番号をもつ。

(11) ローマ字書き (romanization)

ローマ字アルファベット以外の文字をローマ字アルファベットで表わすこと。ただし、この基準では日本語における漢字はその読みを、仮名書きのものは仮名表示をアルファベットで表わすことをいう。なお「翻字」を参照。

(12) ISBN

国際標準図書番号。International Standard Book Number の略。個々の図書を識別するための国際コード。数字10桁（末尾はチェック文字）から成るが、便宜的にスペース、ハイフン等でグループ化される。通常、標題紙裏又は裏表紙に記載されている。国際ISBN機関（ベルリンのプロイセン文化財図書館）が管理し、我が国では日本図書コード管理センターが国内機関となっている。

(13) ISSN

国際標準逐次刊行物番号。International Standard Serial Number の略。個々の逐次刊行物名を識別するための国際コード。数字8桁（末尾はチェック文字）から成り、便宜上、4字－4字の形にグループ化される。表紙右上に記されることが多い。国際逐次刊行物データシステム（本部バリ）が管理し、我が国では国立国会図書館がナショナル・センターとなっている。

3. 通 則

3.1 書誌要素

参照文献の記述に必要な書誌要素には、次のものがある。

(1) 著者などに関する書誌要素

個人著者名，団体著者名

編者名，編さん者名

翻訳者名

特許権者名，出願人名，発明者名

(2) 標題に関する書誌要素

論文名

誌 名

書 名

会議報告書名，会議名

会議開催地，開催期間，主催機関名

発明の名称

特許文献の番号

(3) 出版及び物理的特徴に関する書誌要素

版表示

出版地

出版者

出版年（創刊年，廃刊年を含む）

雑誌の巻数・号数

レポート番号

大学名及び学位授与年

公開特許公報等の発行の日付

ページ（参照したページ，資料の総ページ数又は冊数）

シリーズ（シリーズ名，シリーズの巻数・号数を含む）

(4) その他の書誌要素

ISBN, ISSN, 学位請求論文の種類，刊行頻度，言語の表示，入手方法，媒体表示

3.2 書誌要素を求める箇所

(1) 参照文献の記述に必要な書誌要素は，資料そのものから得ることを原則とする。

(2) 雑誌の誌名，巻数，号数等の書誌要素は，表紙及びマストヘッド等から求める。図書の著編者名，書名等の書誌要素は，標題紙又は奥付け等から求める。

(3) 資料の一部分（雑誌論文，図書の1章等）に関する書誌要素，例えばその部分の著者名，論文名，ページ等は，論文又は該当ページから求める。

3.3 表記法

3.3.1 言語及び文字

資料に用いられている言語及び文字は，そのまま表記することを原則とする。

3.3.2 翻字・ローマ字書き

印刷技術又は適用上の理由により、言語又は文字を変換する場合は国際規格に従う。

- (1) 和文文献を欧文の著作において参照するときは、ローマ字で記述することを原則とする。ローマ字書きの著者名、誌名及び書名が併記されているときは、これを転記する。併記されていないときは、その読みをローマ字に変換する。
- (2) 外国語の文献を和文又は欧文の著作において参照するときは、ローマ字アルファベットを用いる言語は、そのまま転記する。非ローマ字アルファベットを用いる言語は、国際規格に従ってローマ字に翻字することができる。原文にローマ字翻字を付記する場合には、後者を丸括弧に入れる。

参考 翻字及びローマ字書きに関する国際規格としては、現在次のような規格及び推奨規格がある。

- ISO 9** Documentation — Transliteration of Slavic Cyrillic Characters into Latin Characters
- ISO 233** Documentation — Transliteration of Arabic Characters into Latin Characters
- ISO 233-2** Information and Documentation — Transliteration of Arabic Characters into Latin Characters — Part 2: Arabic Language — Simplified Transliteration
- ISO 259-2** Information and Documentation — Transliteration of Hebrew Characters into Latin Characters — Part 2: Simplified Transliteration
- ISO/R843** International System for the Transliteration of Greek Characters into Latin Characters
- ISO 3602** Documentaiton — Romanization of Japanese (kana script)
- ISO 7098** Information and Documentation — Romanization of Chinese

3.3.3 略記法

参照文献における略記の方法は、公刊された基準・規格に準拠する。

参考 略記法に関する基準・規格としては、現在次のものが制定されている。

- SIST 05** 雑誌名の略記
- SIST 06** 機関名の表記
- ISO 4** Documentation — Rules for the Abbreviation of Title Words and Titles of Publications
- ISO 639** Code for the Representation of Names of Languages
- ISO 832** Information and Documentation — Bibliographic Description and References — Rules for the Abbreviation of Bibliographic Terms
- ISO 3166** Codes for the Representation of Names of Countries

3.3.4 大文字使用法

参照文献における大文字の使用法は、原文の言語の慣習に従うことを原則とする。ただし、誌名、書名、シリーズ名においては、初語以外の冠詞、接続詞、前置詞を除く各語の初字を大文字とする。

3.3.5 書体

特定の書誌要素に、異なる活字書体（イタリック、ゴシック等）を採用してもよい。

3.3.6 句読点法

句読点は、個々の書誌要素の区切り等に用いる。参照文献の記述において使用することが望ましい句読点等の記号とその用法を、表1に示した。

表1 句読点等とその用法

名 称	記 号	用 法
ピリオド	.	3.1において示した各書誌要素のグループの区切りに用いるほか、論文名、版表示および著者名、編者名等の後にも用いる。
コンマ	,	書誌要素内及び書誌要素間の区切りに用いる。
セミコロン	;	欧文の複数著者名の区切りに用いる。
コロ	:	論文名と副標題及び書名と副書名の間の区切りに用いる。
引用符	“ ”	レポートや論文集の1論文、図書の1章のように、標題の区別がつきにくい場合に、1論文や1章の標題をくくるために用いる。
丸括弧	()	雑誌の号数、シリーズ記述、ISBN、ISSN、言語表示、媒体表示、付記事項（同一機関名、同一誌名を区別するための地名等の付記等）に用いる。
角括弧	[]	出版年不明等、不明な書誌要素を記述する場合に用いる。

(注) 識別のために特に必要な場合を除き、丸括弧の前後のピリオド(.)及びコンマ(,)は省略してもよい。

4. 書誌要素の記述と構成

4.1 著者などに関する書誌要素

4.1.1 個人著者名

- (1) 和文著者名は、姓、名の順に記述する。

例 森康夫 上野富作

- (2) 欧文著者名は、姓、名の順を原則とする。他の書誌要素（例えば書名）が前に位置する場合には、名、姓の順としてもよい。名は、頭文字で記述しても省略しなくてもよい。

例1. Schreger, H.L.

例2. Schreger, Howard L.

- (3) 複数の著者名

- (a) 著者が複数のときは、すべての著者名を列記することが望ましい。

例1. 島田俊夫, 平木敬, 西田健次

例2. Folland, G.B.; Stein, E.M.

- (b) 欧文著者名の場合は、“and”、“et”等の接続詞を用いてもよい。

例 Lee, M.H., Barness, D.P. and Hardy, N.W.

- (c) 著者名の記述の省略

著者が2名を越える場合には、先頭に位置する著者1名を記述し、その他の著者名は、和文著者名では“ほか”、欧文著者名では“et al.”（あるいはet alii）を用いて省略してもよい。

例1. 島田俊夫ほか

例2. Lee, M.H. et al.

4.1.2 団体著者名

その資料の著作に責任のある団体あるいは機関（以下これらを“機関”と呼ぶ）を団体著者とする。

- (1) 機関の識別が上位機関の名称を示すことによってなされるときは、その上位機関名を先に記述し、次に著作にあたった機関名を記述する。

例 1. 科学技術庁金属材料技術研究所

例 2. Carnegie Institution of Washington, Geophysical Laboratory

上位機関名が記載されていても、通常、固有の機関名で周知され、かつ識別される場合には、直接その機関名を記述する。

例 1. 名古屋工業技術研究所（通商産業省工業技術院は不要）

例 2. WHO (WHO とし, United Nations は付けない)

- (2) 機関名の略記

機関名は、資料に記載されているとおりに記述することを原則とするが、略記する場合には、公刊された基準やリストにできるだけ準拠する（3.3.3参照）。また、省略形（特にアクロニム）は原則として使用を避けるが、地域、専門領域を越えて広く通用しているものは使用してもよい。

例 1. Unesco

例 2. OECD

- (3) 同一名称を有する異なる機関は、機関名の後に、所在地名を丸括弧に入れて識別することが望ましい。

例 1. National Institute of Health (Tokyo)

例 2. National Institute of Health (Bethesda, Maryland)

- (4) 機関名の先頭に付く冠詞及び法人の種類を示す語（財団法人、株式会社、and Co., publisher）は、原則として省く。

4.1.3 著者が不明の場合

著者が不明の場合は、参照文献は標題から始める。

4.1.4 編者名、編さん者名、翻訳者名

- (1) 図書（論文集、会議報告を含む）の編者名(editor)又は編さん者名(compiler)が記載されている場合には編者又は編さん者を著者とみなし、そのあとに役割表示“編”、“ed.”、“comp.”等を付けて記述する。

例 1. 小坂樹徳編. 糖尿病学

例 2. Van Dyke, M. et al., ed. 又は M. Van Dyke et al., ed. (4.1.1 (2) 参照)

- (2) 図書の 1 論文、1 章を参照した場合、図書の編者名は役割表示を付けて、書名のあとに記述する。

例 1. 都築正和ほか. “高分子医用材料に対し臨床的に要求される物性機能性”. 医用高分子材料. 医用高分子材料編集委員会編

例 2. Hopsinger, E.J. "Snow avalanche motion and related phenomena". Annual Review of Fluid Mechanics. Van Dyke, M. et al., ed.

- (3) 翻訳者名は、書名の後に役割表示を付けて記述する。

例 1. Kessner, M.T. 新しい数学：ゲーム理論. 竹田一雄訳

例 2. Popov, A. Game Theory. M.T. Lancaster, transl. (又は tr.)

備考 翻訳者名を著者名の次に丸括弧に入れて記述してもよい。

例 1. Kessner, M.T. (竹田一雄訳) 新しい数学：ゲーム理論

例 2. Popov, A. (Lancaster, M.T., tr.) Game Theory

- (4) 図書以外の翻訳文献については、翻訳者名の表示は不要である。

4.2 標題に関する書誌要素

4.2.1 論文名

- (1) 論文名は、原資料に記載されているとおりに記述する。

例 1. 高速車両の音源の可視化：X字形マイクロホンアレイによる解析

例 2. Educational telecommunications services: A case study on an integrated approach

- (2) 論文名が特に長く、紙面等の都合によってすべての記述が困難な場合には、途中から省略してもよい。省略した箇所には…を付ける。

例 1. 電気化学的触媒反応の速度定数測定法と…

例 2. Electric-dipole-moment for the thallium ...

- (3) 副標題は、論文の内容について必要な情報が十分に与えられているときは省略してもよい。

- (4) 欧文論文において和文論文を参照する場合、欧文の論文名が併載されているときは、これを記述し、併載されていないときは欧文に翻訳し、原文が日本語文であることを語または言語記号により表示する (4.5(4) 参照)。

4.2.2 誌 名

- (1) 和文誌名は、原則として略記せずに完全誌名を記述する。

- (2) 欧文論文において和文誌名を参照する場合には、誌名は原則としてローマ字書きとし、欧文誌名を持つものは、必要があれば丸括弧に入れてローマ字誌名の後に付記する。正式な欧文誌名のないものは、欧訳誌名を付けてはならない (3.3.2 参照)。

例 Kagaku To Kogyo (Chemistry and Chemical Industry)

- (3) 欧文誌名は、国際的慣行に従って略記してもよい。略記形が不明の場合は、略記せずに完全誌名を記述する (3.3.3 参照)。

例 (a) 完全誌名 Journal of Physics and Chemistry of Solids

(b) 略記誌名 J. Phys. Chem. Solids

- (4) 雑誌が、部 (sections)、編 (sub-sections) 等に分かれて発行され、共通誌名のほかに、部 (又は編等) の誌名 (及び番号) を持つときは、共通誌名に続けて、部 (又は編等) の誌名 (及び番号) を記述する。

例 1. (a) 完全誌名 福井大学教育学部紀要 第 2 部, 自然科学

(b) 略記誌名 福井大教育紀要, 第 2 部

例 2. (a) 完全誌名 Physical Review, A, General Physics

(b) 略記誌名 Phys. Rev., A

- (5) 同一誌名を持つ逐次刊行物は、誌名の後に出版地等を丸括弧に入れて付記することが望ましい。

例 1. Natura (Amsterdam)

例 2. Natura (Bucuresti)

例 3. Natura (Milano)

- (6) 投稿する同一雑誌に掲載されている論文を参照する場合でも、その誌名は前記の記述法による。“本誌”, “this journal” 等の語又は特殊な省略誌名を使ってはならない。

4.2.3 書 名

- (1) 書名は標題紙に記載されているとおりに記述する。
- (2) 副書名は、書名の後に記述する。

例 1. 分子生物学の基礎：生体高分子の構造と機能

例 2. Organic Solvents : Physical Properties and Methods of Purification

書名のみで、内容についての必要な情報が十分に与えられているときには、副書名は省略してもよい。

- (3) 特に長い書名は、途中から省略してもよい。省略した箇所には…を付ける。

例 The Electronic Structure of Point Defects ...

- (4) 欧文論文において和文書名を参照する場合、書名は原則としてローマ字書きで記述し、欧文書名の必要があれば翻訳し、ローマ字書名の後に丸括弧に入れて付記する (3.3.2 参照)。

例 Ryutai Rikigaku (Fluid Mechanics)

4.2.4 会議報告書名、会議名

会議報告書名、会議名は、資料に記載されているとおりに記述する。会議に数種の名称があり、すべてを記載することが困難なときには、主催機関名を含むものを優先して記述する。

4.2.5 会議開催地、開催期間及び主催機関名

会議開催地、開催期間及び主催機関名は、書名に含まれているものは再度記述しない。含まれていない要素のみ、書名のあとに記述する。

4.3 出版及び物理的特徴に関する書誌要素

4.3.1 版表示

- (1) 版の表示は出版物に記載されているとおりに記述する。ただし、欧文の場合は、アラビア数字及び版次を表す略語を用いる。

例 1. 第 2 版 新版 改訂版 増訂版

例 2. 2nd ed. 3rd ed. 3. ed. 3. Aufl.

- (2) 初版の場合は記述しなくてもよい。

4.3.2 出版地

- (1) 出版地は、出版者の所在する都市名を、出版物に記載されているとおりに記述する。
- (2) 出版地が複数の場合には、主要なものが明らかであれば、それを記述し、判断できないときは、最初に記載されているものを記述する。
- (3) 同名の都市名は、国、州、県名等を付記する。国名等は略記することができる (3.3.3 参照)。

例 1. Alexandria, Egypt

例 2. Alexandria, VA.

- (4) 出版地が不明の場合は、[出版地不明] と表示することが望ましい。

4.3.3 出版者

- (1) 出版者は、団体著者名の記述方法に準じて記述する (4.1.2 参照)。
- (2) 出版者が、団体著者名あるいは書名の一部として記載されている場合には、省略してもよい。
- (3) 出版者が不明の場合は、[出版者不明] と表示することが望ましい。

4.3.4 出版年

- (1) 出版年の記述は、西暦紀年で統一し、アラビア数字で記述する。

- (2) 2冊以上のセットとなった図書の各冊の出版年が異なる場合は、最初と最後の出版年をハイフンで結び記述する。

例 1. 1988-1993 (完結した場合)

例 2. 1988- (刊行中の場合)

- (3) 出版年が不明の場合は, [n.d.] (出版年の記載がない場合), [1996?] (出版年を推定した場合) と表示することが望ましい。

4.3.5 雑誌の巻数・号数

- (1) 巻数・号数は, アラビア数字で統一する。
- (2) 巻数に代えて年号が用いられる場合は, その年号を記述し, 号数に代えて月又は月日が用いられる場合は, その月又は月日を記述する。

注意 発行年月(日)と混同しないこと。

- (3) 巻号と通巻番号がある場合には, 巻号を記述する。
- (4) 号数あるいは巻数のみの場合は, その号数あるいは巻数を記述する。
- (5) 巻数・号数以外に詳細な記載がある場合には, 号数に続けて記述する。

[もとの表示]	[語を用いる記述法]	[簡略法]
第2巻3号	vol. 2, no. 3	2 (3) 又は 2 (3)
Vol. II No. 3	vol. 2, no. 3	2 (3) 又は 2 (3)
2. Band Heft 3	Bd. 2, Heft 3 又は vol. 2, no. 3	2 (3) 又は 2 (3)
平成8年1月号	1996. 1	
January 25 1996	Jan. 25 1996	
525号	no. 525	(525)
Anniversary Volume	Anniv. Vol.	
4巻7号 増刊号	vol. 4, no. 7, 増刊号	4 (7) 増刊
No. 2, Part II Supplement	no. 2, pt. 2, suppl.	(2), pt. 2, suppl.

4.3.6 レポート番号

レポートにおいては, レポート番号を記述する。そのレポート番号が複数個記載されている場合は, すべてを記述することが望ましい。

4.3.7 大学名及び学位授与年

学位論文において, 大学名及び学位授与年は, 出版者及び出版年に代わる。

4.3.8 ページ

- (1) 記述形式には, 数字の前に p. を付ける場合と付けない場合があるが, いずれかの形式に統一して記述する。

例 p. 1231-1243 又は 1231-1243 (複数ページ)

p. 1231-43 又は 1231-43 (複数ページ)

p. 45 又は 45 (単一ページ)

- (2) ページが連続していない場合には, 次のように記述する。

例 p. 15-20, 22, 24-29 又は 15-20, 22, 24-29

- (3) ページ付けが章ごとに分かれている場合には、章番号をページの前に記述する。

例 p. 10.61-10.67 又は 10.61-10.67 (10章61ページから10章67ページを参照した場合の記述例)

- (4) 通しページ（一つの巻を通して付されているページ）と各号ごとのページの両方でページ付けされた雑誌の場合には、通しページを記述する。

- (5) 資料1冊を参照したときは、その本文の総ページ数を、アラビア数字のあとに p. を付けて記述する。

例 167p.

- (6) 2冊以上のセットとなった資料の場合には、総ページ数の代わりに冊数を記述する。資料がまだ刊行途中の場合には、冊数は記述しない。

例 12冊 12vol.

4.3.9 シリーズ

図書（論文集、会議報告を含む）が、シリーズ名をもっているときは、シリーズ名と巻数、号数等を丸括弧に入れて記述する。ただし、シリーズ全体の書誌記述をするときは、シリーズ名を書名として記述する。

例 1. (情報数理シリーズ, B-1) (シリーズ名をもつ図書を参照する場合)

例 2. 情報数理シリーズ (シリーズ全体を記述する場合)

4.4 特許文献に関する書誌要素

- (1) 特許権者名、出願人名、発明者名等

特許権者名、出願人名及び発明者名（考案者名を含む）は、著者名の記述方法に準じて記述する（4.1.1, 4.1.2参照）。

- (2) 発明の名称

発明の名称（考案の名称を含む）は、論文名の記述方法に準じて記述する（4.2.1参照）。

- (3) 特許文献の番号等

- (a) 特許文献の番号は特許、実用新案等の別、公開、特許の別及び国名を付して記述する。これらの要素は、資料に記載されているとおりに記述することを原則とするが、必要に応じて翻訳、翻字、略記してもよい。

例 1. U. S. Patent 4, 184, 697

例 2. U. S. P. 4, 184, 697

- (b) 日本の特許を欧文論文において参照する場合は、日本国名と特許の種別を付けて記述する。なお、日本の特許を和文論文において参照する場合は、国名の記述は省略してもよい。

例 1. (a) JP 8-252000 (A)

(b) 特開平 8-252000

例 2. (a) JP 2538698 (B2)

(b) 特許 2538698

- (4) 公開特許公報等の発行の日付

- (a) 公開特許公報等の発行の日付は、当該公報の発行日を記述する。発行日の月日は省略してもよい。
(b) 年は4桁の西暦紀年で、月日もそれぞれ2桁の数字で表示する。

例 1996-09-27

- (5) 出願中の特許

出願中の特許は、出願人名又は発明者名、特許の種類及び出願中であることを記述する。さらに、出願番

号，出願日等を記述することが望ましい。

例 1. 日本原子力研究所．日本特許出願中．平 7-264445. 1995-10-12

例 2. 山田太郎．特許出願中

4.5 その他の書誌要素

(1) ISBN, ISSN

丸括弧に入れて，原資料に記載されているとおりに記述する。

例 1. (ISBN 0-7131-1634-3)

例 2. (ISSN 0027-9135)

(2) 学位請求論文の種類

学位請求論文の種類は下記の例のように記述する。

例 1. 博士論文， 修士論文

例 2. Dissertation, Ph. D. thesis, Master's thesis

(3) 雑誌の刊行頻度

雑誌全体を参照する場合には，その刊行頻度を日本語又は英語で記述する。略記を用いてもよい。

(4) 言語の表示

論文名等を翻訳して記述するときは，もとの言語を丸括弧に入れて付記する。この場合，言語名は略記してもよい（3.3.3参照）。

例 1. Awano, M. International standardization of industrial process measurement. Keisoku To Seigyo. vol. 18, no. 6, 1979, p. 490-495. (Japanese)

例 2. Petrenko, V.V. Spectrophotometric determination of some Sulphonylamides, Zhur. Anal. Khim. vol. 35, no. 1, 1980, p. 200-202. (Russian)

(5) 入手方法

レポート，学位論文，会議報告，プレプリント等入手がとくに困難な資料を参照する場合，入手先を記述することが望ましい。

例 1. Available from University Microfilms International, Order no. 9504164

例 2. Dokshitser, Y.L.; Yakanov, D.I. Leningrad preprint, available in English as SLAC Trans. -183

(6) 媒体表示

マイクロフィッシュ等のマイクロフォーム媒体，及びCD-ROMあるいはフロッピーディスクの電子媒体に対しては，下記のように表示する。

例 1. (Microform), (マイクロ)

例 2. (CD-ROM), (FD)

(7) 雑誌へ投稿中の論文

雑誌に投稿された論文で，掲載が決定している場合，次のように記述する。この場合，雑誌の巻数，号数，発行年等が確定又は予定されていれば，それらも記述する。

例 1. 分析化学．掲載予定 (和文の場合)

例 2. to be published in Yeast. vol. 13, no. 1, 1997 (欧文の場合)

4.6 書誌記述の構成

4.6.1 記述の順序

記述の順序は、著者などに関する要素、標題に関する要素、出版及び物理的特徴に関する要素、その他の要素とし、各資料種類別の記述例を5.に示した。

4.6.2 書誌要素の必要度

書誌要素の必要度を、次の二段階に区分する。

必 須（必ず記述すべき要素）

補 助（記述することが望ましい要素）

資料種類別に、個々の要素の必要度を表2にまとめて示した。

表2 資料種類別記述必要度一覧

参照文献の種類		雑誌論文	雑誌全体	図 書	論文集の 1 論 文	レポート	学位論文	会議報告	ナプリント	特許文献
著書などに関する書誌要素	著者名（編者名等を含む）	◎		◎ ○*1	◎	◎	◎	◎	◎	◎*2 ○*3
標題に関する書誌要素	標題 { 論文名	◎		◎*4	◎	◎*4	◎	◎*4	◎	◎*5
	誌名, 書名	◎	◎	◎	◎	◎*6		◎		
	会議開催地, 開催期間, 主催機関名							◎		
	特許文献の番号									◎*7
出版及び物理的特徴に関する書誌要素	版表示			◎						
	出版地		○	○	○	○	○*8	○		
	出版者		○	◎	◎	◎	◎*9	◎		
	出版年	◎	◎*11	◎	◎	◎	◎*10	◎	◎	◎*12
	雑誌の巻数, 号数	◎								
	レポート番号					◎				
	ページ { はじめのページ	◎		◎*4	◎	◎*4		◎*4		
	おわりのページ	◎		◎*4	◎	◎*4		◎*4		
その他の書誌要素	資料の総ページ数又は冊数			○		○	○	○	○	
	シリーズ名, シリーズ番号			○	○					
	ISBN			○	○			○		
	ISSN		○							
	学位請求論文の種類						◎			
	雑誌の刊行頻度		○							
	言語の表示	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	入手方法					○	○		○	
	媒体表示	○		○	○	○	○	○	○	○

- *1 改訂者, 翻訳者名
 *2 特許権者名又は出願人名
 *3 発明者名
 *4 図書等の1章や1論文を参照する場合
 *5 発明の名称
 *6 レポート名
 *7 国名, 文献種別を含む
 *8 大学の所在地
 *9 大学名
 *10 学位授与年
 *11 創刊年
 *12 公開特許公報等の発行の日付. 年は必須, 月日は補助

表中の記号の意味は次のとおりである。

◎ 必須要素……必ず記述すべき要素

○ 補助要素……記述することが望ましい要素

5. 資料種類別の記述例

参照文献リスト作成の場合の具体的記述例を，資料種類別に以下に示す。

- (1) 記述例は，詳細な例を(a)に，簡略化した例を(b)に示す。
- (2) 記述例を示した文献の原資料に記載されているそれぞれの書誌要素の名称と記述の必要度を，下の表に示した。

5.1 雑 誌

5.1.1 雑誌の1記事

著者名．論文名．誌名．巻数，号数，出版年，はじめのページーおわりのページ．（言語の表示）（媒体表示）

例 1.(a) 花岡 菖．戦略的アウトソーシングにともなうシステム監査のあり方について．システム監査．vol. 9, no. 2, 1996, p. 2-10.

(b) 花岡 菖．戦略的アウトソーシングにともなう…．システム監査．**9** (2), 1996, 2-10.

例 2.(a) Ledezma, Gustavo ; Adrian. Heat sinks with sloped plate fins in natural and forced convection. International Journal of Heat and Mass Transfer. vol. 39, no. 9, 1996, p. 1773-1783.

(b) Ledezma, G. ; Bejan, A. Heat sinks with sloped plate fins Int. J. Heat Mass Transf. **39** (9), 1996, 1773-83.

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節*
著 者 名	必 須	花岡 菖	Ledezma, Gustavo ; Bejan, Adrian	4. 1
論 文 名	必 須	戦略的アウトソーシング にともなうシステム監査 のあり方について	Heat sinks with sloped plate fins in natural and forced convection	4. 2. 1
誌 名	必 須	システム監査	International Journal of Heat and Mass Transfer	4. 2. 2
巻 数	必 須	vol. 9	vol. 39	4. 3. 5
号 数	必 須	no. 2	no. 9	4. 3. 5
出 版 年	必 須	1996	1996	4. 3. 4
ペ ー ジ	必 須	p. 2-10	p. 1773-1783	4. 3. 8
言 語 の 表 示	補 助			4. 5 (4)
媒 体 表 示	補 助			4. 5 (6)

*当該書誌要素について記述してある章節との対応を示す。

5.1.2 特集号の雑誌記事

(1) 特集記事を一括して参照する場合

特集標題．誌名．巻数，号数，出版年，はじめのページ—おわりのページ．（言語の表示）（媒体表示）

例 1.(a) 特集：都市における応用地質学の課題．応用地質．vol. 36, no. 6, 1996, p. 398-475.

(b) 特集：都市における応用地質学の課題．応用地質．**36** (6), 1996, 398-475.

例 2.(a) Special issue : Amyand David Buckingham. Molecular Physics. vol. 88, no. 3, 1996, p. 591-874.

(b) Special issue : Amyand David Buckingham. Mol. Phys. **88** (3), 1996, 591-874.

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
論 文 名 (特集標題)	必 須	特集：都市における応用地質学の課題	Special issue : Amyand David Buckingham	4.2.1
誌 名	必 須	応用地質	Molecular Physics	4.2.2
巻 数	必 須	vol. 36	vol. 88	4.3.5
号 数	必 須	no. 6	no. 3	4.3.5
出 版 年	必 須	1996	1996	4.3.4
ペ ー ジ	必 須	p. 398-475	p. 591-874	4.3.8
言語の表示	補 助			4.5(4)
媒体表示	補 助			4.5(6)

(2) 特集記事中の1論文

著者名．特集標題，論文名．誌名．巻数，号数，出版年，はじめのページ—おわりのページ．（言語の表示）（媒体表示）

例 (a) 大石朗，橋詰良吉，鈴木浩一．特集：都市における応用地質学の課題，兵庫県美方地域の比抵抗構造．応用地質．vol. 36, no. 6, 1996, p. 427-441.

(b) 大石朗ほか．特集：都市における応用地質学の課題，兵庫県美方地域の比抵抗構造．応用地質．**36** (6), 1996, 427-441.

5.1.3 雑 誌 (全体)

誌名. 出版地, 出版者, 出版年. (ISSN) 刊行頻度 (言語の表示)

例 1. 情報管理. 東京, 科学技術振興事業団, 1958-. (ISSN 0021-7298) 月刊.

例 2. Acta Metallurgica. New York, Pergamon, 1978-. (ISSN 0001-6160) monthly.

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
誌 名	必 須	情報管理	Acta Metallurgica	4.2.2
出 版 地	補 助	東京	New York	4.3.2
出 版 者	補 助	科学技術振興事業団	Pergamon	4.3.3
出 版 年 (創刊年)	必 須	1958-	1978-	4.3.4
I S S N	補 助	(ISSN 0029-0181)	(ISSN 0001-6160)	4.5 (1)
刊 行 頻 度	補 助	月刊	monthly	4.5 (3)
言 語 の 表 示	補 助			4.5 (4)

5.2 図 書

5.2.1 図書 1 冊を参照する場合

著者名．書名．版表示．出版地，出版者，出版年，総ページ数，（シリーズ名，シリーズ番号）．(ISBN)
（言語の表示）（媒体表示）

例 1．井手文雄．界面制御と複合材料の設計．東京，シグマ出版，1995，250p.

(ISBN 4-915666-27-1)

例 2.(a) McMillan, G.K. pH Measurement and Control. 2nd ed. North Carolina, Instrument Society of America, 1994, 299p. (ISBN 0-87664-725-5)

(b) McMillan, G.K. pH Measurement and Control. 2nd ed. Instrument Society of America, 1994.

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
著 者 名	必 須	井手文雄	McMillan, G.K.	4. 1
書 名	必 須	界面制御と複合材料の設計	pH Measurement and Control	4. 2. 3
版 表 示	必 須		2nd ed.	4. 3. 1
出 版 地	補 助	東京	North Carolina	4. 3. 2
出 版 者	必 須	シグマ出版	Instrument Society of America	4. 3. 3
出 版 年	必 須	1995	1994	4. 3. 4
資料の総ページ 数又は冊数	補 助	250p.	299p.	4. 3. 8
シ リ ー ズ 名 シ リ ー ズ 番 号	補 助			4. 3. 9
I S B N	補 助	(ISBN 4-915666-27-1)	(ISBN 0-87664-725-5)	4. 5 (1)
言 語 の 表 示	補 助			4. 5 (4)
媒 体 表 示	補 助			4. 5 (6)

5.2.2 図書の1章又は一部を参照する場合

著者名．章の見出し．書名．版表示．出版地，出版者，出版年，はじめのページーおわりのページ，（シリーズ名，シリーズ番号）．(ISBN)（言語の表示）（媒体表示）

例1．井手文雄．“3 界面制御の技術”．界面制御と複合材料の設計．東京，シグマ出版，1995，
p. 12-43. (ISBN 4-915666-27-1)

例2．Doets, K. "5 Linear resolution". From Logic to Logic Programming. Cambridge, MIT
Press, 1994, p. 93-120.(ISBN 0-262-04142-1)

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
著 者 名	必 須	井手文雄	Doets, K.	4.1
論 文 名 (章の見出し)	補 助	3 界面制御の技術	5 Linear resolution	4.2.1
書 名	必 須	界面制御と複合材料の設計	From Logic to Logic Programming	4.2.3
版 表 示	必 須			4.3.1
出 版 地	補 助	東京	Cambridge	4.3.2
出 版 者	必 須	シグマ出版	MIT Press	4.3.3
出 版 年	必 須	1995	1994	4.3.4
ペ ー ジ	必 須	p. 12-43	p. 93-120	4.3.8
シ リ ー ズ 名 シ リ ー ズ 番 号	補 助			4.3.9
I S B N	補 助	(ISBN 4-915666-27-1)	(ISBN 0-262-04142-1)	4.5(1)
言 語 の 表 示	補 助			4.5(4)
媒 体 表 示	補 助			4.5(6)

5.2.3 図書の合集，シリーズ全体を参照する場合

著者名，書名，版表示，出版地，出版者，出版年，冊数，(ISSN) (言語の表示) (媒体表示)

例 1. 太田次郎ほか編. 基礎生物学講座. 東京，朝倉書店，1991-1995, 11 冊.

例 2. Hardy, M.A.; Kinne, R.K.H., ed. Issues in Biomedicine. Basel, S. Karger, 1990-.
(ISSN 1010-8408)

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
著 者 名	必 須	太田次郎ほか編	Hardy, M.A.; Kinne, R.K.H., ed.	4.1
書 名	必 須	基礎生物学講座	Issues in Biomedicine	4.2.3
版 表 示	必 須			4.3.1
出 版 地	補 助	東京	Basel	4.3.2
出 版 者	必 須	朝倉書店	S. Karger	4.3.3
出 版 年	必 須	1991-1995	1990-	4.3.4
資料の総ページ 数又は冊数*	補 助	11冊		4.3.8
I S S N	補 助		(ISSN 1010-8408)	4.5(1)
言 語 の 表 示	補 助			4.5(4)
媒 体 表 示	補 助			4.5(6)

*刊行中のものは冊数を記述しない。

5.3 論文集

5.3.1 図書形態の論文集の1論文を参照する場合

著者名．論文名．書名：副書名．編者名．出版地，出版者，出版年，はじめのページおわりのページ，
(シリーズ名，シリーズ番号)．(ISBN) (言語の表示) (媒体表示)

例 1.(a) 清野裕，井原裕，宇佐見勝，山田祐一郎．“インスリンならびにソマトスタチンレセプター遺伝子とその機能発現に関与する食物因子の検索”．機能性食品の研究．荒井綜一監修．東京，学会出版センター，1995，p. 64-71. (ISBN 4-7622-9808-5)

(b) 清野裕ほか．“インスリンならびにソマトスタチンレセプター遺伝子とその機能発現に関与する食物因子の検索”．機能性食品の研究．荒井綜一監修．学会出版センター，1995，64-71.

例 2.(a) Basset, J.M.; Candy, J.P.; Choplin, A.; Didillon, B.; Quignard, F.; Theolier, A.
“Surface organometallic chemistry on oxides, on zeolites and on metals”. Perspectives in Catalysis: a ‘Chemistry for the 21st Century’ Monograph. Thomas, J.M.; Zamaraev, K.I., ed. Oxford, Blackwell Scientific Publications, 1992, p. 125-145.
(ISBN 0-632-03165-4)

(b) Basset, J.M. et al. “Surface organometallic chemistry ...”. Perspectives in Catalysis: a ‘Chemistry for the 21st Century’ Monograph. Thomas, J.M. et al., ed. Blackwell, 1992, 125-145.

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
著 者 名	必 須	清野裕，井原裕， 宇佐見勝，山田祐一郎	Basset, J.M.; Candy, J.P.; Choplin, A.; Didillon, B.; Quignard, F.; Theolier, A.	4. 1
論 文 名	必 須	インスリンならびにソマトスタチンレセプター遺伝子とその機能発現に関与する食物因子の検索	Surface organometallic chemistry on oxides, on zeolites and on metals	4. 2. 1
書 名	必 須	機能性食品の研究	Perspectives in Catalysis: a ‘Chemistry for the 21st Century’ Monograph	4. 2. 3
編 者 名	必 須	荒井綜一監修	Thomas, J.M.; Zamaraev, K.I., ed.	4. 1
出 版 地	補 助	東京	Oxford	4. 3. 2
出 版 者	必 須	学会出版センター	Blackwell Scientific Publications	4. 3. 3
出 版 年	必 須	1995	1992	4. 3. 4
ペ ー ジ	必 須	p. 64-71	p. 125-145	4. 3. 8
シ リ ー ズ 名 シ リ ー ズ 番 号	補 助			4. 3. 9
I S B N	補 助	(ISBN 4-7622-9808-5)	(ISBN 0-632-03165-4)	4. 5 (1)
言 語 の 表 示	補 助			4. 5 (4)
媒 体 表 示	補 助			4. 5 (6)

5.3.2 継続して刊行される論文集の1記事

レビュー誌など継続して刊行される論文集は，図書とみなしても雑誌とみなしてもよい。

(1) 図書扱いの場合 (5.3.1 参照)

- 例 1. 田村康二，渡辺雄一郎．“不整脈と circadian rhythm”．不整脈．杉本恒明編．大阪，メディカルレビュー社，1991，p. 40-48.
- 例 2. Samec, Z.; Kakiuchi, T. "Charge transfer kinetics at water-organic solvent phase boundaries". *Advances in Electrochemical Science and Engineering*, vol. 4. Gerischer, H. and Tobias, C.W., ed. Weinheim, VCH, 1995, p. 297-361.

(2) 雑誌記事と考えた場合 (5.1.1 参照)

- 例 1. 田村康二，渡辺雄一郎．不整脈と circadian rhythm．不整脈．1991，p. 40-48.
- 例 2. Samec, Z.; Kakiuchi, T. Charge transfer kinetics at water-organic solvent phase boundaries. *Advances in Electrochemical Science and Engineering*. vol. 4, 1995, p. 297-361.

5.4 レポート

5.4.1 レポート1冊を参照する場合 (5.2.1参照)

著者名，レポート名，出版地，出版者，出版年，レポート番号，総ページ数，（言語の表示）入手方法，
（媒体表示）

例 1.(a) 衛藤基邦，石山新太郎，宇賀地弘和．炭素複合材料を用いた HTTR 用制御棒の開発 (I)．
東京，日本原子力研究所，1996，JAERI-Research 96-043，16p.

(b) 衛藤基邦ほか．炭素複合材料を用いた HTTR 用制御棒の開発 (I)．日本原子力研究所，
1996，JAERI-Research 96-043.

例 2.(a) Fainchtein, Rosalinda. An Instructional Adaptive Mesh Refinement Code for
Unstructured Grids. Washington, D.C., National Aeronautics and Space Administration,
1996, NASA-CR-4718, NAG5-2652, 33p. Available from the NASA Center for
AeroSpace Informtaion. (Microform)

(b) Fainchtein, R. An Instructional Adaptive Mesh Refinement Code for Unstructured
Grids. NASA, 1996, NASA-CR-4718, NAG5-2652.

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
著 者 名	必 須	衛藤基邦，石山新太郎， 宇賀地弘和	Fainchtein, Rosalinda	4. 1
レ ポ ー ト 名	必 須	炭素複合材料を用いた HTTR 用制御棒の開発 (I)	An Instructional Adaptive Mesh Refinement Code for Unstructured Grids	4. 2. 1
出 版 地	補 助	東京	Washington, D.C.	4. 3. 2
出 版 者	必 須	日本原子力研究所	National Aeronautics and Space Administration	4. 3. 3
出 版 年	必 須	1996	1996	4. 3. 4
レポート番号*	必 須	JAERI-Research 96-043	NASA-CR-4718, NAG5-2652	4. 3. 6
資料の総ページ 数又は冊数	補 助	16p.	33p.	4. 3. 8
言 語 の 表 示	補 助			4.5 (4)
入 手 方 法	補 助		Available from the NASA Center for AeroSpace Information	4. 5 (5)
媒 体 表 示	補 助		(Microform)	4. 5 (6)

*固有レポート番号を先に記す。

5.4.2 レポートの1論文の参照

レポートの1論文の参照は、図書形態の論文集の1論文に準ずる（5.3.1参照）。

著者名．論文名．レポート名．編者名．出版地，出版者，出版年，レポート番号，はじめのページ～おわりのページ．（言語の表示）入手方法（媒体表示）

例1.(a) 吉川英樹，中原弘道．“地熱流体中の ^{220}Rn 濃度：温泉ガス，填気ガス中の濃度”．トロンとその娘核種の性状と挙動に関する専門研究会報告書．下道國，什本忠編．大阪，京都大学原子炉実験所，1996，KURRI-TR-417，p. 45-52.

(b) 吉川英樹ほか．トロンとその娘核種の性状と挙動に関する専門研究会報告書．下道國ほか編．京都大学原子炉実験所，1996，KURRI-TR-417，45-52.

例2.(a) Herron, John ; Margitan, J.J. ; DeMore, W.B. "Kinetics : Data panel reports".

Atmospheric Effects of Aviation. Thompson, Anne M. et al. ed. Washington, D.C., National Aeronautics and Space Administration, 1996, NASA-RP-1385, p. 67-122. Availabile from NASA CASI (301) 621-0390.

(b) Herron, John et al. Atmospheric Effects of Aviation. Thompson, Anne M. et al. ed. Washington, D.C., NASA, 1996, NASA-RP-1385, 67-122.

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
著 者 名	必 須	吉川英樹，中原弘道	Herron, John ; Margitan, J.J. ; DeMore, W.B.	4.1
論 文 名	補 助	地熱流体中の ^{220}Rn 濃度：温泉ガス，填気ガス中の濃度	Kinetics : Data panel reports	4.2.1
レ ポ ー ト 名	必 須	トロンとその娘核種の性状と挙動に関する専門研究会報告書	Atmospheric Effects of Aviation	4.2.1
編 者 名	必 須	下道國，什本忠編	Thompson, Anne M. et al. ed.	4.1
出 版 地	補 助	大阪	Washington, D.C.	4.3.2
出 版 者	必 須	京都大学原子炉実験所	National Aeronautics and Space Administration	4.3.3
出 版 年	必 須	1996	1996	4.3.4
レポ-ト番号	必 須	KURRI-TR-417	NASA-RP-1385	4.3.6
ペ ー ジ	必 須	p. 45-52	p. 67-122	4.3.8
言語の表示	補 助			4.5 (4)
入 手 方 法	補 助		Availabile from NASA CASI (301) 621-0390	4.5 (5)
媒 体 表 示	補 助			4.5 (6)

5.5 学位論文

著者名．論文名．出版地，大学名，出版年，総ページ数．学位請求論文の種類（言語の表示）入手方法（媒体表示）

例 1.(a) 安居輝人．POU 転写因子，Epoc-1 変異マウスの作製．大阪，大阪大学，1994，141p．博士論文．

(b) 安居輝人．POU 転写因子，Epoc-1 変異マウスの作製．大阪大学，1994．博士論文．

例 2.(a) Altman, S.J. Behavior of nutrients in groundwater of an agricultural valley and its riparian zone. University Park, Pennsylvania State University, 1994, 366p. Ph.D. thesis, available from University Microfilms International, Order no. 9504164.

(b) Altman, S.J. Behavior of nutrients in groundwater of an agricultural valley and its riparian zone. Pennsylvania State University, 1994, Ph.D. thesis.

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
著 者 名	必 須	安居輝人	Altman, S.J.	4. 1
論 文 名	必 須	POU 転写因子，Epoc-1 変異マウスの作製	Behavior of nutrients in groundwater of an agricultural valley and its riparian zone	4. 2. 1
出 版 地	補 助	大阪	University Park	4. 3. 2
大 学 名	必 須	大阪大学	Pennsylvania State University	4. 3. 7
出 版 年 (学位授与年)	必 須	1994	1994	4. 3. 7
資料の総ページ 数又は冊数	補 助	141p.	366p.	4. 3. 8
学位請求論文の 種類	必 須	博士論文	Ph.D. thesis	4. 5 (2)
言 語 の 表 示	補 助			4. 5 (4)
入 手 方 法	補 助		Available from University Microfilms International, Order no. 9504164	4.5 (5)
媒 体 表 示	補 助			4.5 (6)

5.6 会議報告

5.6.1 図書形態の会議報告の1論文

著者名，論文名，会議報告書名，編者名，会議開催地，会議開催年月，会議主催機関名，出版地，出版者，出版年，はじめのページ～終わりのページ，(ISBN)（言語の表示）（媒体表示）

例1. 中内秀雄. “エラストマー製品のマイクロ解析”. 第45回ゴム技術シンポジウム：エラストマー製品の寿命と信頼性. 日本ゴム協会研究部会編. 東京，1996-01，日本ゴム協会研究部会. 東京，1996, p. 38-48.

例2. Elvin, John D. "Lockheed martin approach to a Reusable Launch Vehicle (RLV)". Space Technology and Applications International Forum Part 2. Mohamed S. El-Genk ed. Albuquerque, NM, 1996-01, University of New Mexico. New York, American Institute of Physics, 1996, p. 507-514.

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
著 者 名	必 須	中内秀雄	Elvin, John D.	4. 1
論 文 名	必 須	エラストマー製品のマイクロ解析	Lockheed martin approach to a Reusable Launch Vehicle (RLV)	4. 2. 1
会議報告書名	必 須	第45回ゴム技術シンポジウム：エラストマー製品の寿命と信頼性	Space Technology and Applications International Forum Part 2	4. 2. 4
編 者 名	必 須	日本ゴム協会研究部会編	Mohamed S. El-Genk ed.	4. 1
会 議 開 催 地	必 須	東京	Albuquerque, NM	4. 2. 5
会 議 開 催 年 月	必 須	1996-01	1996-01	4. 2. 5
会議主催機関名	必 須	日本ゴム協会研究部会	University of New Mexico	4. 2. 5
出 版 地	補 助	東京	New York	4. 3. 2
出 版 者	必 須	日本ゴム協会研究部会	American Institute of Physics	4. 3. 3
出 版 年	必 須	1996	1996	4. 3. 4
ペ ー ジ	必 須	p. 38-48	p. 507-514	4. 3. 8
I S B N	補 助			4. 5 (1)
言 語 の 表 示	補 助			4. 5 (4)
媒 体 表 示	補 助			4. 5 (6)

5.6.2 雑誌形態の会議報告の1論文

雑誌の1論文の場合に準じる(5.1.1参照)。

- 例1. 上別府由紀ほか. “有識産婦における分娩結果”. 第69回日本産業衛生学会年会. 旭川, 1996-06, 日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. vol. 38, 臨時増刊号, 1996, p. 66.
- 例2. Potter, M.E. "Risk assessment terms and definitions". IAMFES 1994 Annual Meeting. 1994-11, International Association of Milk, Food and Environmental Sanitarians. Journal of Food Protection. supplement, 1996, p. 6-9.

5.7 プレプリント

- 例1. 岡村昌幸, 遠藤正浩. 同じ基地硬さを有するS45CとFCD400の疲労強度の比較. 第49期総会講演会, 福岡, 1996-03, 日本機械学会九州支部. 九州支部講演論文集. no. 968-1, 1996, p. 1.
- 例2. Tesina, K.: Preprint Tokyo UT-368 (1981)

5.8 特許文献

著者名，発明者名，発明の名称，特許文献の番号等，公開特許公報等の発行の日付，（言語の表示）（媒体表示）

例 1. 三菱マテリアル，西田耕一，矢野信，複合粉碎システムの制御方法，特開平 6-39308.
1994-02-15. (CD-ROM)

例 2. Bridges, R.P. Group operated circuit disconnect apparatus for overhead electricpower lines.
U.S. Patent 5,483,030. 1994-05-10.

書誌要素	必要度	和 文 文 献	欧 文 文 献	適用章節
著 者 名 (特許権者名) 又は 出願人名	必 須	三菱マテリアル	Bridges, R.P.	4. 4 (1) 4. 1. 1
発 明 者 名	補 助	西田耕一，矢野信		4. 4 (1) 4. 1. 2
発 明 の 名 称 (考案の名称)	必 須	複合粉碎システムの制御方法	Group operated circuit disconnect apparatus for overhead electric-power lines	4. 4 (2) 4. 2. 1
特許文献の番号 ・種類，国名	必 須	特開平 6-39308	U.S. Patent 5,483,030	4. 4 (3)
公開特許公報等の 発行の日付	(年) 必 須 (月日) 補 助	1994-02-15	1994-05-10	4. 4 (4)
言 語 の 表 示	補 助			4. 5 (4)
媒 体 表 示	補 助	(CD-ROM)		4. 5 (6)

5.9 雑誌へ投稿中の論文

著者名，論文名，誌名，巻数，号数，出版年。

例 1. 山手一記ほか，鉄系金属廃棄物の溶融・造塊時における放射性核種の挙動，铸造工学，vol. 68,
no. 8, 1996. 掲載予定。

例 2. Saito, K. et al. Measurement of gamma dose rate in dwellings in the Tokyo metropolitan
area. to be published in Radiation Protection Dosimetry. vol. 67, 1996.

科学技術情報流通技術基準

参考文献の書き方

解 説

[制定の経緯]

昭和55年に制定された「書誌的情報の記述(SIST 02-1980)」は二次資料における書誌記述と参考文献の記述の双方を適用の対象としていた。しかし、機械可読情報に対応する二次資料の記述基準として見直し作業を始めるにあたり、参考文献の書き方を単独の基準として分離することとなった。このような経緯で昭和59年3月に、「参考文献の書き方(SIST 02-1984)」が制定された。その後、当技術基準の普及活動と相まって、学会誌等の執筆規定の制定あるいは改訂の折などに、参考文献の書き方についての有用な指針として次第に取り込まれ、また実際の論文執筆者にも、参考文献を書く際の拠りどころとして利用されつつある。

しかしながら改定後10年余を経た今、この基準をとりまく環境にいくつかの顕著な変化が現れてきている。科学技術情報流通技術基準検討会が指摘した主要なポイントは以下の3点であった。

- (1) この10年間に「学術雑誌の構成とその要素(SIST 07)」 「学術論文の構成とその要素(SIST 08)」 「科学技術レポートの様式(SIST 09)」 「会議予稿集の様式(SIST 12)」が順次発行されて、これらが規制的な規格ではなく、標準モデルとしての基準であることの理解が深まり、基準に対する学協会等の協力が得られやすくなってきていること。
- (2) 対応する国際規格 ISO 690: 1980 (E) Documentation - Bibliographic References - Content, Form and Structure との整合を図るべきこと。前回改訂の際には ISO 690 の修正作業が終わっていなかったため、整合していない部分を残している。そのため、海外誌への投稿の折などには、使い分けを意識しなければならない。
- (3) ワープロやパソコンで論文を書く人が大多数となってきたこと、SGMLを適用した文献にも考慮を払うべき状況が生じていること、さらには ISO 690-2 Information and Documentation - Bibliographic References - Electronic Documents or Parts Thereof のように、電子文献の参照に関しても配慮すべき時期にきていること。

以上のほかに、この基準の利用対象者を明確にすること、規定と例示を分離すべきことも求められた。

これらの視点をもって基準の見直しをすすめる、特に学際あるいは学問分野が交錯する主題（例えば、医学者の機械工学誌への執筆）の論文がフロッピーディスクで投稿されるといった現況をふまえて、それらの執筆者に理解され、利用がたやすい規定となるよう、内容の一般化と表現の平易化を今回改訂の主眼に置いた。ISO 690 との整合については個々に取り込みを図ったが、和文文献に固有な記述や、発行年のように ISO 690 とは異なる記述順序が広く一般化している部分までは踏み込んでいない。一方、ISO 690-2に相当する電子文献参照についての規定化は、SIST 02 と同じ基盤に立つとはいえ修正を超える内容と規模をもつので、別の態勢で取り急ぎ作業にとりかかる必要があるとの認識を深めた。

1. 適用範囲

基準をつくり、多くの人がその基準に則った作業をすることが、結局はそれら多くの人の利益として還元される—それが標準化の原理であることはいままでもない。したがって、論文執筆者がこの基準の最終的な適用対象者であり、それを担保するために、学協会等が執筆規定を作成あるいは改訂するときには指針と具体的な規定を

例示するものとして役立つことを目指している。

一方、適用対象物としての参考文献は、公刊物だけではなく、責任の所在などを明らかにするため未刊行資料を含めることが多い。しかし、情報の受け手の立場からみると、未刊行資料であっても時間の経過とともに入手の可能性をもつ、掲載予定あるいは印刷中などの資料は基準の適用範囲と考えるが、参照の事実の主張にとどまる私信等については規定の対象とはしなかった。

2. 用語の意味

なるべく一般性のある用語解説を使用しているが、本基準特有の表現になっているものもあるので、一般的な用語解説でなく、この基準のためのものであることをお断りしておく。基準を書くにあたって、参照された文献に書かれていることを「記載」といい、参考文献に書くことを「記述」と使い分けている。定義したのではなく、語の使用を区別したのである。

3.1 書誌要素

書誌要素とは書誌的情報を分割して、情報を与える最小単位をいうもので、例えば、著者名、誌名、発行年などを指し、参考文献はこの書誌要素の羅列でもある。

書誌要素は、それぞれに関連した内容と機能をもっており、グループに括ることができる。4つに分けたグループ概念の応用は、書誌要素の順序を定めるにある。グループごとに括って、グループ内とグループ間の句読点法を使い分ければ、整然とした書誌記述になる。ただ、参考文献の記述にあたって、誤りを避けることを第一義とするので、ゆるやかな適用も止むを得ないと考えている。

3.2 書誌要素を求める箇所

参照された文献そのものから得るのを原則としたが、直接得られない場合は、それに代わる情報源を用いることになるが、本文では特に言及していない。

3.3.4 大文字使用法

例えば、ドイツ語は名詞を大文字から始める習慣になっており、言語によって大文字の使用法は異なっている。原文献に、いろいろの形で記載されていても、それぞれの習慣を尊重して、原語の習慣どおりに記述するよう規定した。EINSTEIN と記載されていても Einstein と記述するようにである。

3.3.5 書 体

識別性を高めるために、雑誌名をイタリック体で、巻数をゴシック体で記述すること等はきわめて一般的に行われているもので、それらを容認した条項である。

4.1.1 個人著者名

姓名の記述順序について現在の慣行をみると、姓名の順、名姓の順、あるいはその複合とあって、学協会での規定もさまざまである。著者索引の点からは姓名の順が利用し易く、また日本人名の順からも、全体的な統一を求めて姓名の順を採用している。

名の完全記述は日本人名はもちろんのこととしているが、欧文では、略記、完記いずれもあり、正確さのため

には完記，簡素化のためには略記が望まれるので，強い規制をしていない。

4.3.8 ページ

雑誌の1論文において，はじめのページとおわりのページを記述することは全体の中の部分の位置を明示するだけでなく，資料の総ページ表示と同じように情報のおよそのサイズを伝える意味をもち，きわめて必要なことと考える。したがって，おわりのページを必須項目とすることとした。

4.5 その他の書誌要素

(6) 媒体表示

従来からあったマイクロフォームに，CD-ROMとFDを媒体表示として加えた。しかし，オンライン文献等その他の電子文献については，経緯でも触れたとおりここでは言及していない。

4.6.2 書誌要素の必要度

特別の事情がない限り，記載すべき書誌要素として規定されていた「準必須」を概ね「必須」とし，残りを「補助」に振り分けて，全体を「必須」と「補助」の2段階区分に単純化した。とくに，雑誌論文の論文名を省く永年の慣習をもつ学問分野があることを承知のうえで，これを準必須から必須の項目に変えたのは，参考文献を情報として利用する側にとってそれがきわめて有用であることを重視したためである。論文そのものは言うに及ばず，そこに記載された参考文献等はすべて他者に情報を伝えることを第一義とするとの観点に立つ。各学会，各分野で，今回の改訂主旨に深い理解を賜りたい。

科学技術情報 SIST 02-1997
流通技術基準 参照文献の書き方

1997年(平成9年)7月 第一刷発行

編集 科学技術庁科学技術振興局科学技術情報課

〒100 東京都千代田区霞が関二丁目2-1
電話 (03) 3581-5271 (代表)

発行 科学技術振興機構

〒102-8666 東京都千代田区四番町五番地三
電話 (03) 5214-8406

SIST

Standards for Information of

Science & Technology

Description of Bibliographic References

SIST 02 -1997

Revised 1997-03-24

Investigated by

**Committee on Standards for Information of
Science & Technology
in Science and Technology Agency**

Published by

Jap Japan Science and Technology Agency ion

**5-3, Yonbancho,
Chiyoda-ku, Tokyo, Japan**

Printed in Japan